

1. 団体概要

私たち「はあとびあ学園フリースクールフレンズ」は、平成6年より新湊にある自宅を拠点に活動をはじめ、平成15年より10年間は近隣の公民館を拠点にして活動し、平成25年にNPO法人化して、平成28年より射水市小杉地区のテナントを借りて活動し、現在は射水市大門総合会館2Fで活動していて、利用料金は従量制で1日1,500円です。

学校に行けない子どもたちが、学校に行っている子どもたちと同等のサービスを受けれるように、特に彼らがある教育を受ける権利が果たせるための受け皿を整えることを目的としており、安心・安全な学び・育ちの場であるとともに、多様な学びの拠点であり、権利擁護の拠点であり、安心と信頼醸成の拠点であると考えています。対象は不登校の小学生・中学生であり、現在25人ほどが利用していて、小学生と中学生との割合は4対3ぐらいで小学生が多い状況です。主に射水市と高岡市在住の子どもたちであり、富山市からも数人通ってきています。ほとんどはご家族が送迎をしていますが、自分で電車、バス等の公共交通を利用して通っている子どももいます。15歳以上は別にある居場所に通っています。

スタッフは6人で、そのうち3人は教員経験者です。毎日3人体制のシフトを組んで勤務しています。

開所時間は月曜から金曜までの週5日で、9時から15時までです。月曜日は昼食づくり調理活動、火曜日はフリー、水曜日は近くの体育館でのスポーツ活動、木曜日はゲーム中心、金曜日は学習活動を主に行っています。毎年夏休み明けには作品展を開催しています。また、12月には「フレンズ祭り」と称して、ご家族や一般人、会館の職員、日々お世話になっている方々、近隣の子どもたちに呼びかけて、自分たちが作成したキーホルダーやバッジを販売したり、日々の活動の様子動画の上映会や工夫して作ったおもちゃで遊んだり、お客さんにお茶を出したり、家庭でのセカンドストリートに出せる程度の不用品を提供いただいて販売したり、して楽しんでいます。去年はすさまじい数の人たちがあの狭い空間に集まってくれて、中には県議会議員や市議会議員、教員などもいらっしゃっていて、大変な活況を呈した一日となりました。

また、子どもたちの中で可愛いキャラクターを描く子がいて、そのキャラクターをあしらったTシャツを販売中ですので、ぜひお買い求めください。

フリースクール活動を起点として、クッキング、アート、コスプレ、パソコン、裁縫、畑、漫画、散歩、卓球、カラオケ、悩み相談など様々な活動が毎日どこかで行われています。

2. 活動の特徴・成果

多様な学びとは、彼らの意志を尊重し、その特性や興味に応じた学び方を選択できるあり方であり、私たちは彼らが様々なことを見聞きして情報を取得して自分で自分の生き方を決定していく事によって自立の道を自信を持って進んでいくことを応援していきたいと考えています。

権利擁護の拠点とは、こどもの権利の尊重が第一と考え、こどもの最善の利益のために彼らが発する言葉に耳を傾け、彼らが自分で判断できるように権利についての情報を提供し、学校内外でのいじめや権利侵害から彼らを守る場であり、特に子ども性暴力防止法が制定されるに伴って彼らが被害にあわないよう一層サポートしていきたいと考えています。

安心と信頼醸成の拠点とは、子どもたちとの信頼関係をいかに築いていくかが最優先されます。しかし短時間で築けるものではなく、時間をかけて活動の中で丁寧に無理をせずだんだんと信頼のきずなを結んでいき、そのことに注力していくことが自立への第一歩となり、信頼関係が築けるとともに興味関心の広がり、自分の意志の芽生えがみられるようになっていくと思います。

以上の考え方を約束できる環境を作っていきたいと考えています。

フリースクールを終えた子どもたちはほとんどが高等学校に進学しています。自分の進路については今後どのよ

うに生きていきたいか、役立っていききたいかを真剣に考えています。例えば、自分たちが経験してきたつらいことを現在経験しているこどもたちを守る側に立ちたいと大学では福祉系を卒業して社会福祉士の資格を取って生きづらさを抱える子ども支援をしていたり、ゲーム三昧の生活から情報処理の分野を目指し通信高等学校を卒業して情報系の専門学校に行き、現在は大手企業で活躍していたりしています。このように小中学校時代不登校していても彼らは間違いなくしっかりと自立していています。

3. フリースクールの持続可能な運営の課題

フリースクールは義務教育段階のこどもたちが利用する学校に代わる施設であり、これだけ不登校状態の子どもが増加の一途を辿っている昨今において、彼らの受け皿としての民間機関の存在はますます大きくなっています。最近では不登校の背景にはさまざまな面があることを垣間見ることが多くなり、彼らのセーフティネットの役目つまり教育的支援と福祉的支援を行い切れ目のない支援も果たしていると考えています。

フリースクールは以上の役割を果たしており公共性を持っていると考えられ、その運営を支える仕組みを整える必要があります。

○補助金だけに頼らない運営の構築を目指す

利用料金だけに頼らず、自治体の補助金を活用し、複数名の専任スタッフとボランティアの適正な役割分担による経営効率化を図る

施設運営を継続し、安全で教育に適した環境を整えていくには、運営者の経営努力やスタッフの個人的なやりがいやボランティア精神に頼るやり方では到底難しく、脆弱な運営基盤はスタッフの人材育成につながらず学びの質の保障、フリースクールの継続性が懸念されることとなります。よって施設の整備充実とスタッフの確保処遇が一番の課題となります

1. 資金調達と公的支援の活用について

利用料金のみで運営する場合、児童・生徒の増減がダイレクトに経営リスクとなるため、収入源の多角化を図る。

- 自治体の補助制度（人件費、家賃）
- 助成金・クラウドファンディング：民間財団からの助成金

2. コストと人材の最適化について

少人数でも回せるスリムな運営体制と、連携体制の構築を行う

- ボランティア・学生の活用：教員志望の学生やボランティアを巻き込むことで、人件費を抑えつつ生徒一人ひとりに寄り添える環境を作る
- 連携による出席扱い：地域の小・中学校と連携し、フリースクールでの活動が「出席扱い」となる要件を満たすことで、保護者の信頼と利用の継続率を高める

3. リスク管理と拠点運営について

リスクを最小限に抑えながら規模を拡大する

- スモールスタート：初期費用（敷金・礼金や設備投資）を抑えるため、まずはレンタルスペースや古民家などを活用する
- 複数事業の併用：フリースクール単体ではなく、放課後等デイサービスや学習塾などを併設することで、経営基盤を強固にする努力をする

こどもたちの思いや声、フリースクールを客観的にとらえる視点からの意見に耳を傾けて、地域からのご理解をいただく努力をしていくことが大切であります。そうすることで、こどもの学び育ちの多様なあり方への理解がすすみ、フリースクールが安定した持続可能な運営ができることになっていき、こどもたちを自分らしく学び育てる社会の実現に寄与することができると考えています。